

(二九) 「オザセビヤ」

オザセビヤ〔鳥賊の甲〕は鳥賊属の動物體より採取するものにして、殆んど炭酸カルシムより成り、極めて細かき粉末にすれば指頭に觸感せず、石版に於ては補修に際し使用せらるゝものにして、腐蝕せる版面を軽く拭擦し、畫線を害することなく護謨膜を除去し得る利益あり、

(三〇) 「アルコール」

「アルコール」は酒類を蒸溜して製したるものなり、無色透明可燃性の液にして揮發し易く、特異の香氣を有し水「テレピン」「エーテル」等に良く混和し、比重〇・七九乃至〇・八〇なり、
無水「アルコール」は空氣中に放置するときには濕氣を吸收するを以て、永く無水とし保存すること難し、純「アルコール」は水と混和するも溷濁せ

ず、或は半容量の硝酸銀溶液を混和するも白濁を生ぜず、或はアンモニヤ「水」を加ふるも着色せざるを可とす、

「アルコール」は製版に於ては各種の溶劑とし、或は版面準備液とし、最も有用なるは樹脂の溶劑とし、假漆を調製することなり、

(三一) 「ベンヅル」

「ベンゾル」は石炭「タール」を蒸溜分別して、製したる稀薄なる無色の液體にして、石炭瓦斯に類似する臭氣を有し容易に點火し、強く煤烟を生ずる炎を發すべし、水には溶解せざるも、「エーテル」「アルコール」等と良く混和す、此蒸氣は「エーテル」の如く危険なり、此偽造品には多く廉價なる、「ベンヂン」を混合せり、純粹のものは沃度を加ふれば莖色を呈し、多量の「ピクリン」酸を加ふれば黄金色を呈すべし、

「ベンズル」は樹脂、油、脂肪、「カウチック」「アスハルト」等を溶解するを以て、製

版に於て「ラック」及び「ヒルニス」等の溶剤となり、或は版面準備液として使用せらるゝものなり、

(三二一) 「エーテル」

「エーテル」は「アルコール」に硫酸を作用せしめたる生成物にして、純粋「エーテル」は無色透明の揮發し易き液にして、中性の反應を呈し、特異の香氣を有し、「アルコール」及び脂肪油には良く混和し、攝氏三十五度に於て沸騰し、比重は〇・七二にして最も點火し易きものなるを以て多量を取扱ふときは注意すべし、然らざれば、揮發せる蒸氣は火氣に接觸して發火し、或は蒸氣を呼吸して健康を害するか、或は多量に蒸氣を吸入するときに知覺を失はしむることあるべし、「エーテル」は濾紙上にて揮發せしむるに臭氣を發せず、又蒸發して残留物なきを良とす、

「エーテル」は火綿、樹脂、脂肪及び油等を溶解するを以て、製版に於ては此

等の溶剤として使用せらるゝものなり、

(三二二) 「テレピン」油

「テレピン」油(松根油)は松樹屬より滲出する粘稠なる松脂に蒸氣を通し蒸溜して得たる揮發油なり、

「テレピン」油は無色若しくは淡黄色にして、特異の香氣を有し、攝氏百七十六度にて沸騰し、比重は〇・八六なり、水には僅に溶解し、「アルコール」「エーテル」「コロホニウム」には良く混和すべし、純粹の「テレピン」は「アルコール」に溶解するに透明度を變化せず、或は濾紙上に滴下し乾燥するに、脂肪の痕跡を残留せず、

「テレピン」油は永く放置する間に黄褐色となり、一部が蟻酸若しくは醋酸に變ずることあり、此如きものを使用するときは、版面を腐蝕せしむるを以て、決して使用すべからず、若し酸を發生せる疑あるときは、水を

加へ充分振蕩し、試験紙を以て試みたる後使用すべし、
「テレピン」油は「アスハルト」樹脂、油、脂肪等を溶解するを以て製版に於ては重に脂肪物質及び印刷肉を除去し、或は此等の溶剤として使用せらるゝものなり、

(三四) 二硫化炭素

二硫化炭素は高温度に於て硫黄と炭素の直接の化合によりて生ずるものにして、木炭若しくは「コークス」を熱し、之れに硫黄の蒸氣を通し製したるものなり、
二硫化炭素は稀薄なる無色の液體にして、純粹のものは殆んど臭氣なくして、強く光線を屈折する性を有し、攝氏四十七度にて沸騰し、百四十九度に熱するときは、發火し、青色炎を發して燃焼す、比重は一、二九なり、製版に於ては脂肪、油、樹脂等の溶剤として使用せらるゝものなり、

(三五) 「クロ、ホルム」

「クロ、ホルム」は重に「アルコール」及び「アセトン」を分解して製したるものにして、純粹のものは無色透明揮發性の液にして、特異の香氣を發し、味少しく甘くして刺戟性を有せり、攝氏六十度乃至六十二度に於て沸騰し、「アルコール」「エーテル」揮發油には、良く混和すれども水には不溶解なり、各種の樹脂「カウチツク」「ギユツタペルカ」硫黄、沃度、磷酸等は容易く「クロ、ホルム」に溶解すべし、若し樹脂が「アルコール」に溶解し難きときは先づ「クロ、ホルム」にて軟和ならしめ、次に「アルコール」に入るゝときは容易く溶解すべし、「クロ、ホルム」は容易に揮發するを以て此樹脂液は速に乾燥すべし、「クロ、ホルム」蒸氣を吸入するときは危険なり、製版に於ては重に樹脂類の溶剤とし、使用せらるゝものなり、

(三六) 「ラーベンドー」油

「ラーベンドー」油は「ラーベンドー」の花弁に、水を加へ蒸溜して製するものなり、此油は揮發性にして芳香を有し、味稍苦く良質のものは、殆んど無色、或は淡黄色にして脂肪性強く、アルコールに溶解し、比重は〇、八八乃至〇、九〇なり製版に於ては石版の轉寫及び腐蝕を仕損したるを補修するとき、或は轉寫肉混和劑として使用せらるゝものなり、

(三七) 亞麻仁油

亞麻仁油は亞麻の種子を、壓搾して得たる乾燥性の油にして、冷壓法によりて得たるものは、黄色なれども、温壓法を以てすれば褐色の油を得べし、精製したるものは透明黄色にして特異の臭氣を有せり、攝氏百三十度に於て沸騰し、二百五十度乃至二百九十度にて永く煮沸すれば、ヒ

ルニス」を得べし、クロ、ホルム、テレピン」二硫化炭素には良く混和し、比重は〇、九三乃至〇、九四なり、

亞麻仁油には他の惡しき乾燥油、脂肪油、礦油、魚油等を混和して偽造せるあり、純粹の亞麻仁油は同量の硝酸及び銅屑少許を加へ、永く經過するも透明の液狀に止まるべし、又此油を以て濡したる捻紙に點火して後吹滅するに、動物性脂肪を燃焼する如き臭氣を放つ可らず、

亞麻仁油は印刷及び製版に於て最も必要なるものにして、重に「ヒルニス」として使用せらるゝものなり、

(三八) 「グリセリン」

「グリセリン」は脂肪及び油と結合して存在せり、通常脂肪の鹼化により生ずるものにして、石鹼及び蠟燭製造の副産物なり、販賣せるものは種々の濃度を有せり、

化學的純粹の「グリセリン」は無色無臭の濃厚液にして強く甘味を有し、水及び「アルコール」に随意の比に溶解し、「エーテル」「クロロホルム」及び脂肪油には不溶解なり、比重は一、二二乃至一、二三なり、「グリセリン」は水を加へ稀薄にしたるものは中性の反應を呈し、硝酸銀溶液により白濁を生せず、或は硫化水素を加ふるも變化せざるを可とす、「グリセリン」は容易に乾燥せずして、水分を吸集し有機物を柔和ならしめ、且つ濕潤するを以て、製版に於ては重に濕潤劑として使用せらるゝものなり、

(三九) 「アンモニヤ」水

「アンモニヤ」は天然に游離せるもの無く、唯化合物となりて存するのみ、即ち硝酸鹽となりて大氣中に存し、又炭酸鹽となりて動物質の腐敗に際し發生するものなり、「アンモニヤ」水は普通鹽化「アンモニヤ」に、消石灰

を加へ、熱して發生する瓦斯を水に吸収せしめたるものなり、

「アンモニヤ」水は無色透明揮發性の液にして激しき臭氣を有し、強「アルカリ」の反應を呈し、稀鹽酸に浸したる硝子棒を近くれば白煙を放ち、熱すれば含有せる「アンモニヤ」を盡く飛散すべし、比重は〇、九六なり、純粹のものは稀薄液に硫化水素水、及び「砒酸」「アンモニウム」溶液を加ふるに變化すべからず、

「アンモニヤ」水は製版に於ては感光液の混和劑とし、或は各種の酸性液を中和するに使用せらるゝものなり、

(四〇) 硝酸

硝酸は石版印刷に於て、最も重要な酸類にして、硫酸及び硝酸「ナトリウム」或は硝酸加里を以て製し、石版印刷に適當なる硝酸は透明にして無色なるべし、黄色を呈するものは鹽化物、硫酸、亞硝酸、沃度鉄等を含有

するものにして、使用に不適當なり、普通販賣せるものは濃度一定せざるを以て、使用に際し注意すべし、化學的純粹なる硝酸は「ボーマー」四十四度比重一・四なり、硝酸に銅屑を投し温むれば黄赤色の瓦斯を發して溶解し其液は藍色を呈し、又此稀薄溶液は硝酸銀溶液に由て變化せず、硝酸は各種の金屬を酸化せしむる力を有し、描畫物、轉寫物及び石版面に化學變化を起さしむ、即ち石版石の炭酸石灰を硝酸化合物に變化し、護謨の浸入に適せしめ、而して其個所には脂肪を反撥し、水分を吸收する性を有せしむるものなり、此化學的變化の外、硝酸は石版面に作用し、圖畫を凸形ならしむる作用をなすものとす、此二つの作用により圖畫の部分には脂肪肉を受附け、他の部分には反撥する能を與ふべし、硝酸は石版に使用する外、金屬板の準備劑とし、或は腐蝕藥として廣く使用せらるゝものなり、

(四一) 鹽酸

鹽酸は食鹽に硫酸を加へ、徐々に熱し發生せる鹽化水素瓦斯を、水中に吸収せしめたるものにして、粗製のもの、各種工業の副産物として多量に製出せらるゝも、銕及び砒素等を含む有り、純粹のものは透明無色にして、空氣中に於て白煙を放ち、然すれば全く揮散すべし、而して四十「ベルセント」の鹽化水素を含み、比重は一・二なり、鹽酸に硝酸銀溶液を加ふれば白色沈澱を生じ、此沈澱は「アンモニヤ」液に溶解すべし、又硫化水素水に由て變化せず、製版に於ては金屬版腐蝕液とし、或は版面準備液とし、或は除酸劑として廣く使用せらるゝものなり、

(四二) 硫酸

硫酸は工業上尤も有用のものにして、爐中にて硫黄若くは硫化鐵等を燃焼し、發生する無水亞硫酸に硝酸、及び水蒸氣を作用せしめ製するものなり、

硫酸は無色無臭透明の油稠液にして、比重は一、八四なり、粗製のものはいく少しく褐色を呈せり、水と混合するときは、著しく發熱すべし、硫酸の稀薄液に硝酸「パリウム」を加ふれば酸類に溶解せざる白色沈澱を生じ、又硝酸銀液を加ふるに變化せず、

硫酸は製版に於ては版面準備劑とし、或は除酸劑とし、或は腐蝕藥及び電堆「バット」混合劑として使用せらるゝものなり、

(四三) 燐酸

燐酸は普通多くの有機物中に存在せるを以て、此等の有機物を煮沸し、或は燐に硝酸を加へて酸化せしめ製するものなり、

燐酸は無色無臭の液にして、比重は一、一二なり、此ものは炭酸「ナトリウム」溶液を以て中和したる後、硝酸銀溶液を加ふれば硝酸及び「アンモニヤ」水に溶解すべき黄色沈澱を生じ、又硫化水素を加ふるも變化せず、製版に於ては腐蝕劑或は準備劑として、硝酸或は砒酸に勝れり、濃厚の燐酸を石版に作用するとき、劇しく泡起せしむるも、硝酸又は硫酸の如く腐蝕作用を連続する力なし、殊に有用なるは石版の補修に使用することゝす、

(四四) 醋酸

醋酸は稀薄酒精、葡萄酒「ビール」等を醱酵せしめ、或は木材を乾溜して多量の純粹醋酸を製出せり、純粹の醋酸は鋭き香氣及び酸味を有する無色揮發性の液にして、冬期に至れば結晶して氷状を爲すか故に又氷醋酸と稱せり、比重一、〇五にして攝氏百八十度にて沸騰すべし、稀薄水溶

液とし、硝酸「バリウム」溶液、硝酸銀溶液「アンモニヤ」水、或は硫化水素を加ふるに變化すべからず、製版に於ては石版の補修、及び「ネガチーフ」印刷に於て、護謨腐蝕の作用を消除する除酸劑とし、或は石版、鋼版等の腐蝕に使用せらるゝものなり、

(四五) 蓼酸

蓼酸は強き有機酸にして多量は酢醬草の葉中に存在せり、之を製するには鋸屑、苛性加里或は苛性曹達を適當に作用せしむるにあり、此酸は無色無臭の結晶體にして、水に溶解すへし、製版に於ては濃液を以て、石版面を拭擦するときは、鏡の如く光澤を生じ、印刷肉の吸収を防ぐを以て、彫刻石版「チガチーフ」描畫「チガチーフ」轉寫及び版面補修に使用せらるゝものなり、

(四六) 枸橼酸

枸橼酸は種々の果實中に存在し、普通枸橼、橙、橙盆子、等より製出するものなり、透明無色の結晶にして、氣中に於て變化せず、強く酸味を有し、水「アルコール」「エーテル」に溶解す、純粹のものは水に溶解し、「アンモニヤ」を加へ中和したる後、硫化水素を加ふるに變化せず、製版に於ては稀薄溶液として、石版補修に使用し、或は醋酸と同様の作用を以て版面に護謨腐蝕を行ひたる後は、除酸劑として或は石版の凹腐蝕に使用せらるゝものなり、

(四七) 弗化水素

弗水素は瓦斯體にして、螢石を鉛製の器に入れ、強硫酸を加へ熱して製

したるものなり、
 無色の強き酸にして、濕氣に觸るゝときは烟狀となり、呼吸するときには有毒なるを以て取扱に注意すべし、弗化水素は容易く水に溶解し、此溶液を弗化水素酸と稱し、硝子磁器及び各種の金屬を腐蝕するを以て、グッタペルカ「白金或は鉛製の容器に貯藏すべし、
 製版に於ては硝子板の腐蝕、及び寫真種板膜の剝離に使用せらるゝものなり、

(四八) 過鹽化鐵

過鹽化鐵は鹽素瓦斯中に鉄を熱し、或は王水に鐵を溶し其溶液を蒸發して製したるものなり、
 過鹽化鐵は乾燥せる黄色結晶狀の塊にして容易く氣中に潮解し、水「アルコール」エーテルに溶け易し、瓶中に入れ硝子栓を以て密閉し貯ふべし、

し、此水溶液に硝酸銀溶液を加ふるに、稀硝酸に溶解せざる白色沈澱を生し、又稀鹽酸を加へたる後、黃血鹵鹽溶液に由て深藍色の沈澱を生ずべし、
 製版に於ては、銅、眞鍮、鐵の腐蝕劑となり、殊に「グラビヤ」版腐蝕には必要のものなり、

(四九) 硝酸銀

硝酸銀は銀を硝酸に溶解し、蒸發結晶して製したるものなり、
 硝酸銀は光輝ある無色板狀の結晶にして、臭氣なく腐蝕性の鏽味を有し水及び「アルコール」に溶解し攝氏百八十九度於て溶融し、赤熱に於ては全く分解して金屬狀銀を游離すべし、硝酸銀は皮膚、若くは他の有機物に觸るゝ時は、之を腐蝕して黒色に變ずる力あり、
 此水液に鹽酸を加ふれば、白色沈澱を生し、其沈澱は「アンモニヤ」水に全

く溶解し硝酸に溶解せず、硝酸銀は有機物と混じ、寫真種板膜或は其他の感光劑として、使用せらるゝ重要なものなり、

(五〇) 硅酸ナトリウム〔水硝子〕

硅酸ナトリウムは水硝子と稱し、砂を炭酸ソーダと共に熔融し、或は燧石を苛性ソーダの濃液と共に煮沸して製したるものなり、〔硅酸カリウムも又水硝子と稱し、作用は硅酸ソジウムに同じ〕
 硅酸ナトリウムは硝子状の粘稠液にして、比較的少量に硅酸を含有し、水に溶解す此溶液を木若しくは紙に塗布するとき、乾固して硝子様の物質となるべし、製版に於ては、コロタイプの下引劑とし、或は色ラックの製造等に使用せらるゝものなり、

(五一) 重クローム酸加里

重クローム酸加里は、クローム鐵鹽に、炭酸加里及び硝石灰を加へ、適當に處置して製したるものなり、
 此鹽は赤橙色の結晶にして、水に溶解して黄橙色を呈し、アルコールには不溶解なり、重クローム酸溶液は有毒にして腐蝕性を有せり、
 重クローム酸アンモニヤは、クローム酸溶液にアンモニヤを注加して製したるものにして、鮮赤橙色小板状の結晶なり、性質及び用途は重クローム酸加里に同じ、然もれど感光力は加里鹽に比し約三倍の強さを有し、殊に冬季の使用に適せり、
 製版に於て此等は亞膠、卵白、護謨等に混和し、感光劑として最も重要なものなり、

(五二) 明礬

明礬普通明礬は火山地方に於て自然に存在すと雖、工業上に用ふるには粘土を濃硫酸と共に熱し、硫酸「アルミニウム」を得此水溶液に硫酸「カリウム」を加へ結晶せしめたるものなり、
明礬は正八面體の無色透明の結晶にして、普通販賣品は半透明の大結晶なり、其味少しく甘く收斂性なり、水に溶解し酸性反應を呈し、「アルコール」に溶解せず、此水溶液は硫化水素水により變化せず、又此泡和溶液に酒石酸溶液を加へ振蕩すれば、半時間以内に結晶性の沈澱を生ず、「クローム」明礬は「クローム」鹽の化合物にして、濃紫色の結晶なり、作用は殆んど普通明礬に同じ、市販のものは往々硫酸を含むを以て注意すべし、
明礬は石版の除酸劑とし、或は各種の收斂劑として使用せらるゝもの

なり、

(五三) 硫酸銅

硫酸銅は種々の製造工業の副産として得らるれども、工業上に使用する大部分は、銅屑を硫酸に溶解して製したるものなり
硫酸銅は透明藍色の結晶にして、乾燥氣中に於て往々風化す、水に溶解し酸性の反應を呈し、「アルコール」には溶解せず、此水溶液に硝酸「バリウム」溶液を和すれば、鹽酸に溶解せざる白き沈澱を生じ、過量の「アンモニヤ」液を加ふれば、透明暗藍色の液を生ずべし、
硫酸銅は電氣製版に於て電堆「バット」液とし、或は銅の腐蝕劑として使用せらるゝものなり、

(五四) 「ソーダ」

「ソーダ」炭酸ナトリウム」各種の人工的方法を以て製造せらるゝものにして、「ルブラン」法に因るときは、芒硝、石灰石、及び石灰の混合物を熱するにあり、「ソーダ」には結晶及び乾燥の二種あり、前者は無色透明の結晶にして氣中に於て風化し水に溶解すれば、強アルカリの反應を呈す、後者は白色輕鬆の粉末にして、結晶炭酸ナトリウムを攝氏廿五度を超へざる温度にて全く風化なさしめ、次に四十度乃至五十度於て乾燥し、篩ひ分けて製したるものなり、

「ソーダ」は水に容易く溶解し、「アルコール」には不溶解なり、水溶液は強アルカリ性の反應を呈し、硫化水素に依て變化せず、又醋酸を以て過飽したる後、硝酸バリウム溶液に由て變化せず、製版に於ては版面準備劑とし、或は溶液の中和劑とし、或は寫真用藥劑として使用せらるゝものなり、

(五五) 石膏

石膏は結晶水を含有する硫酸石灰にして、天然産出し、普通純白にして結晶性を有せり、煨製したる石膏は白色の粉末にして、其一分に〇、五分の水を混和するとき粥状となり、暫時にして、堅く凝結し、同時に容積を膨張する特性を有せり、之れを貯藏するには常に密閉すべし、

煨製石膏は石版の固着或は電氣製版の型等に使用せらるゝものなり、

(五六) 鹽酸加里

鹽酸加里(鹽素酸「カリウム」)は濃厚なる鹽化「カリウム」の水溶液に、石灰を混和し粥状となしたるものに、鹽素瓦斯を導きて製したるものなり、鹽酸加里は光輝ある、無色小板状の結晶、或は結晶粉にして、不快なる冷涼の味を有し、熱湯には容易く溶解すれども、冷水には微に溶解するの

みなり、此水溶液に硫化水素水、硝酸銀を加ふるに變化せず、又鹽酸を混和して熱すれば、綠黄色の瓦斯を發すべし、製版に於ては重に金屬版、腐蝕劑として用らるゝものなり、

(五七) 食鹽(鹽化「ソヂユム」)

食鹽は主として海水より製出し、白色骰子形の結晶、或は白色結晶の粉末にして、味鹹くして水に溶解易し、沸騰水に於ても特に多量を溶解せず、「アルコール」には不溶解なり、此水溶液に硝酸銀溶液を加ふれば、「アンモニヤ」溶解すべき白色沈澱を生ず、又硫化水素、硝酸「バリウム」により變化せず、製版に於ては腐蝕藥混合劑とし、或は寫真用藥劑として使用せらるゝものなり、

(五八) 「マグネシヤ」(苦土)

「マグネシヤ」は「マグネシウム」を大氣中に於て熱燒する際、白色の粉末となりて生し、或は炭酸「マグネシウム」を熱灼して製するものなり、「マグネシヤ」は白色輕鬆、無臭無味の粉末にして、生石灰に類似する強き「アルカリ」性の化合物なり、高溫度に於て熔融することなし、「マクネシヤ」は新しき色印刷物に散布するに使用せらるゝものにして、肉の光澤を消し、且つ印刷面を速に乾燥せしむる利益あり、

(五九) 鹽化「アンモニウム」(礮砂)

「アンモニヤ」及び鹽化水素の直接化合、或は鹽酸を以て「アンモニヤ」溶液を中和し、蒸發乾固して製したるものなり、鹽化「アンモニヤ」は白色結晶狀の粉末、若しくは纖維質の塊にして臭氣

なく、熱すれば揮發し、沸騰水には、等量に、普通溫度に於ては三倍の水に溶解し、「アルコール」には僅に溶解するのみなり、此水溶液に硝酸銀溶液を加ふれば、白色沈澱を生じ、「アンモニヤ」水に溶解すべし、又鹽酸を以て酸性となしたる液に、過酸化溶液を加ふるも赤色を呈すべからず、鹽化「アンモニウム」は寫真用藥劑とし或は電堆「バット」の混和劑として使用せらるゝものなり、

(六〇) 硝石

硝石(硝酸「カリウム」)は含窒素有機物の地中にありて、酸化作用を受けて生成せるものなり、熱帶地方に於ては爾後其地上に播布するを以て、之れを集め取り水に浸漬し、其溶液を蒸發して結晶せしめ、多量の硝石を製出せり、

硝石は無色透明稜柱狀結晶、或は乾燥結晶性の粉末にして、氣中に於て

變化せず、苦くして少しく清涼の味を有し、高熱に於て分解す、水に溶解すれども、「アルコール」には殆んど溶解せず、

硝石は製版に於ては脂肪「クライデー」の混合劑となるものにして、高溫度に於て脂肪酸を礮化し、著しく硬度を保たしめ、且つ「クライデー」に必要の彈性を與ふる爲なり、

(六一) 苛性「ソーダ」

苛性「ソーダ」(水酸化「ナトリウム」)は炭酸「ナトリウム」の水溶液に消石灰を加へ、由て生ずる處の、不溶解性炭酸「カルシム」を濫過し、其液を蒸發して製したるものなり、

苛性「ソーダ」は無定形(普通は棒狀又は塊片)の白色固體にして大氣中に放置すときは、濕氣を吸収して潮解し、終に變して白色の粉末となるべし、水に容易く溶解し、腐蝕性を有し強き「アルカリ」性なり、

此溶液に過剰の酒石酸を加ふるに變化せず、又硝酸を加へ酸性となし
たるものは、硝酸「バルウム」溶液に由て直に變化せず、
製版に於ては版面の準備劑とし、或は各種酸性液の中和劑として使用
せらるゝものなり、

最近製版術必携終

明治四十一年十一月三十日印刷

明治四十一年十二月三日發行

定價金八十五銭

著作者 田 中 孫 六

校閱者 結 城 林 藏

發行者 中 西 京 次 郎

東京市日本橋區室町三丁目十三番地

印刷者 河 合 辰 太 郎

東京市下谷區二長町一番地

印刷所 凸版印刷株式會社

東京市下谷區二長町一番地

版 權
所 有

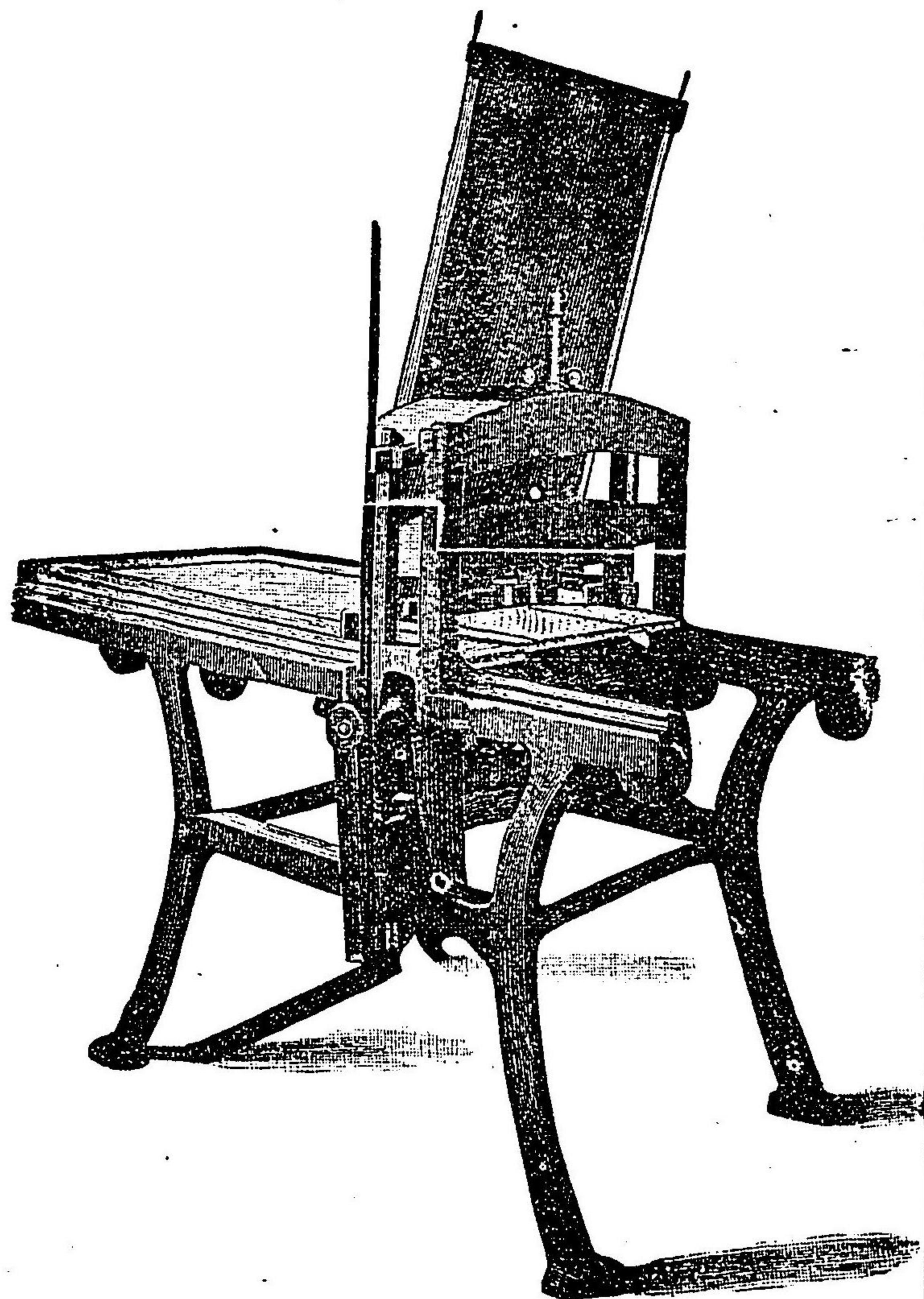
發 兌

東京市日本橋區
室町三丁目

中西京次郎商店

石版手刷
器 械

石版手刷器械并
に齒車附製版器
械は手刷印刷用
として爾來判面
の大小共過多の
製造を重ね居る
こととして堅牢と
運轉の圓滑なる
は既に世評の定
まる所茲に贅言
を挿ます候

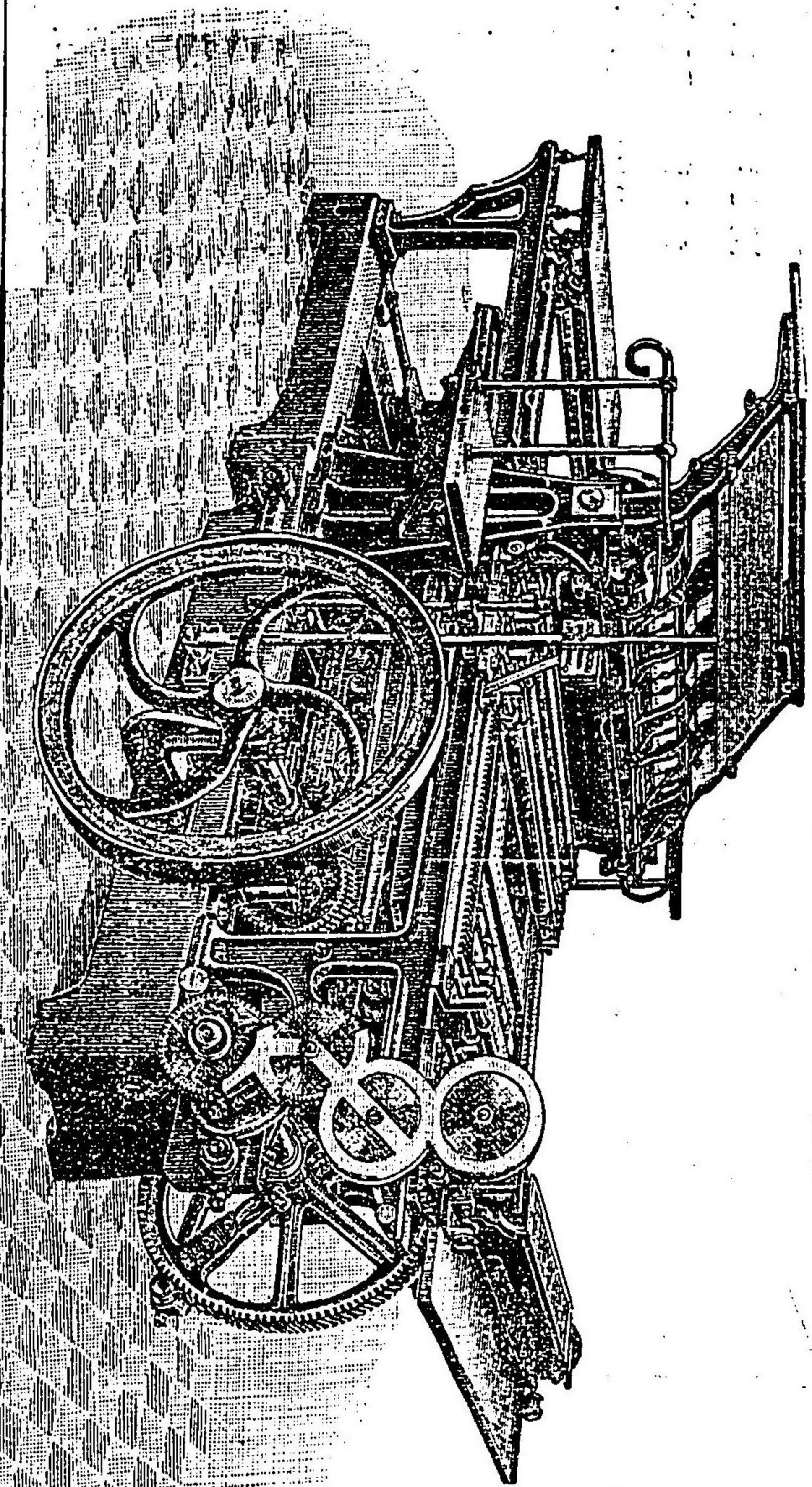


石版速刷機械

石版速刷機械中の最新式にして機械の各部は細慮なる計畫に成り構造の精確にして鐵質の佳良を撰みたるものなれば堅牢にして連轉圓滑なるは一般使用者の賞讃を蒙る所なり尙外國製造品に於ては左記の商會と特約の取結ひ有之り御用命に従ひ特別の御便宜を計り迅速と廉價を旨とし充分の貴意を満たすべく候

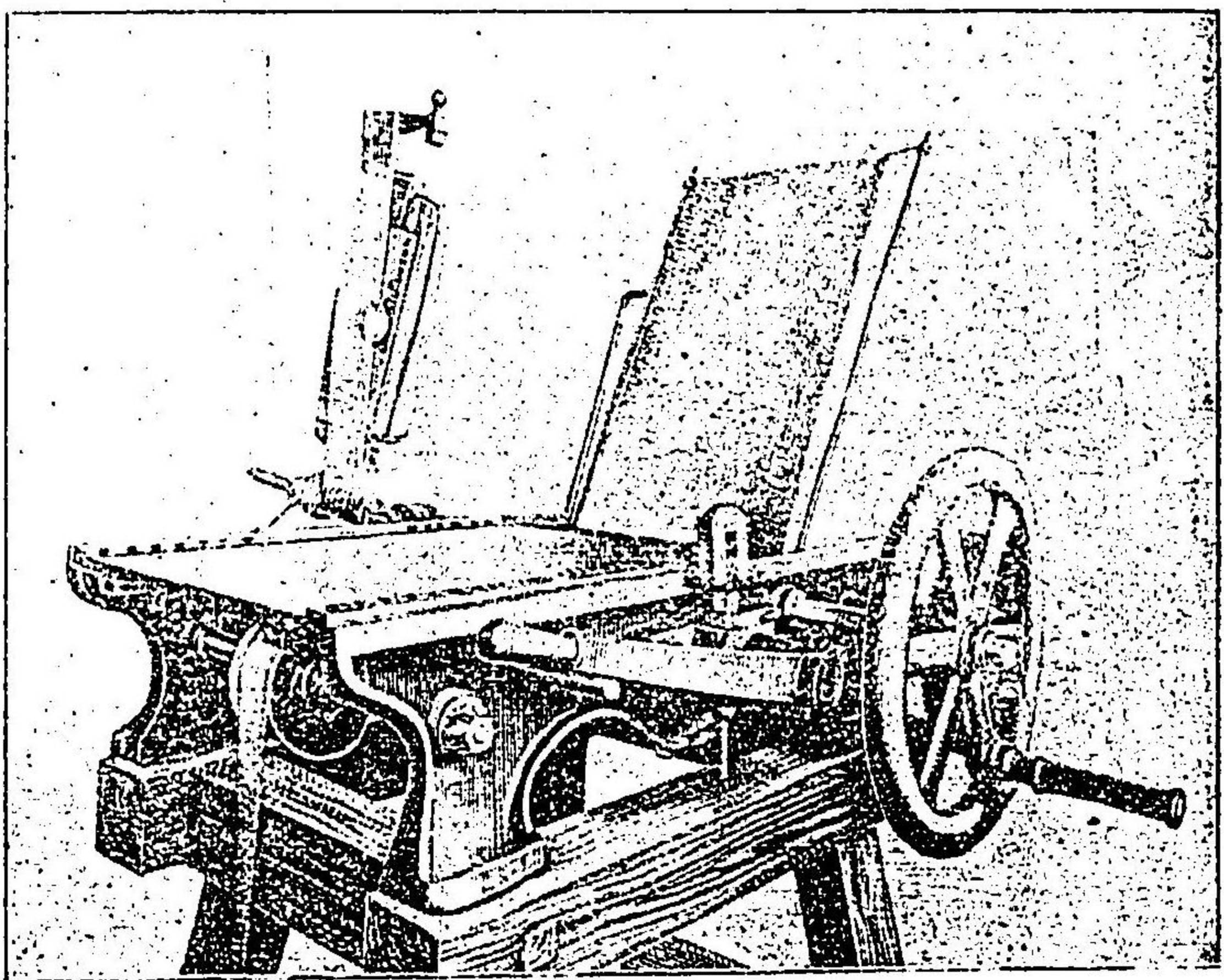
獨逸國ヨハンニスミンナ

獨逸國フーゴッホ商會



「コロタイプ」印刷器械

「コロタイプ」印刷器械は弊店工場特得の技料に係り總ての構造至て輕便なるが故容易に運轉を爲し得られ且つ如何なる場合に於ても之が版材たる硝子板を破毀する等の缺點なく舶來品に一步も譲らざる所なり
尙「コロタイプ」製版用材料并に藥品等精撰の物一切網羅致し居り候



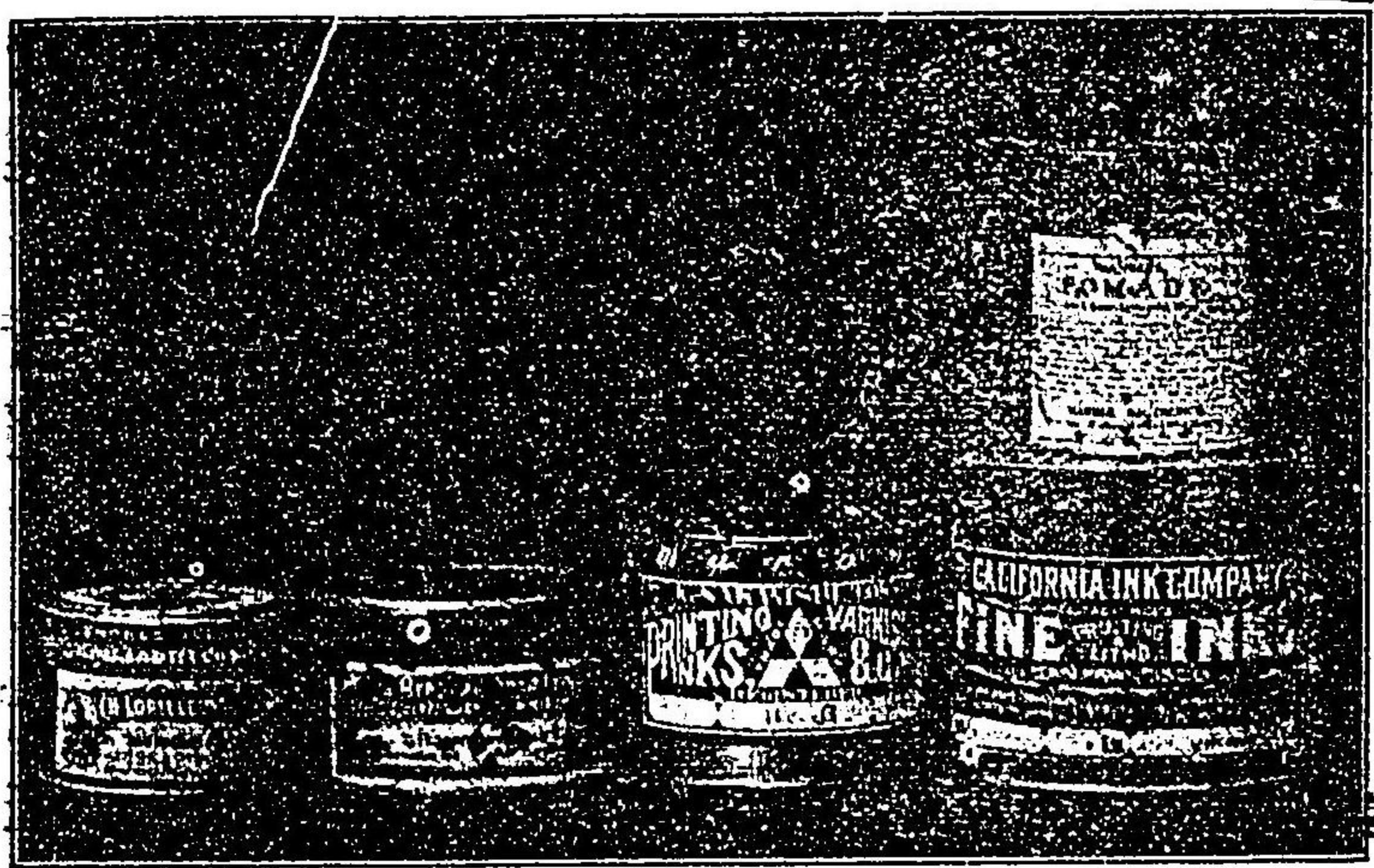
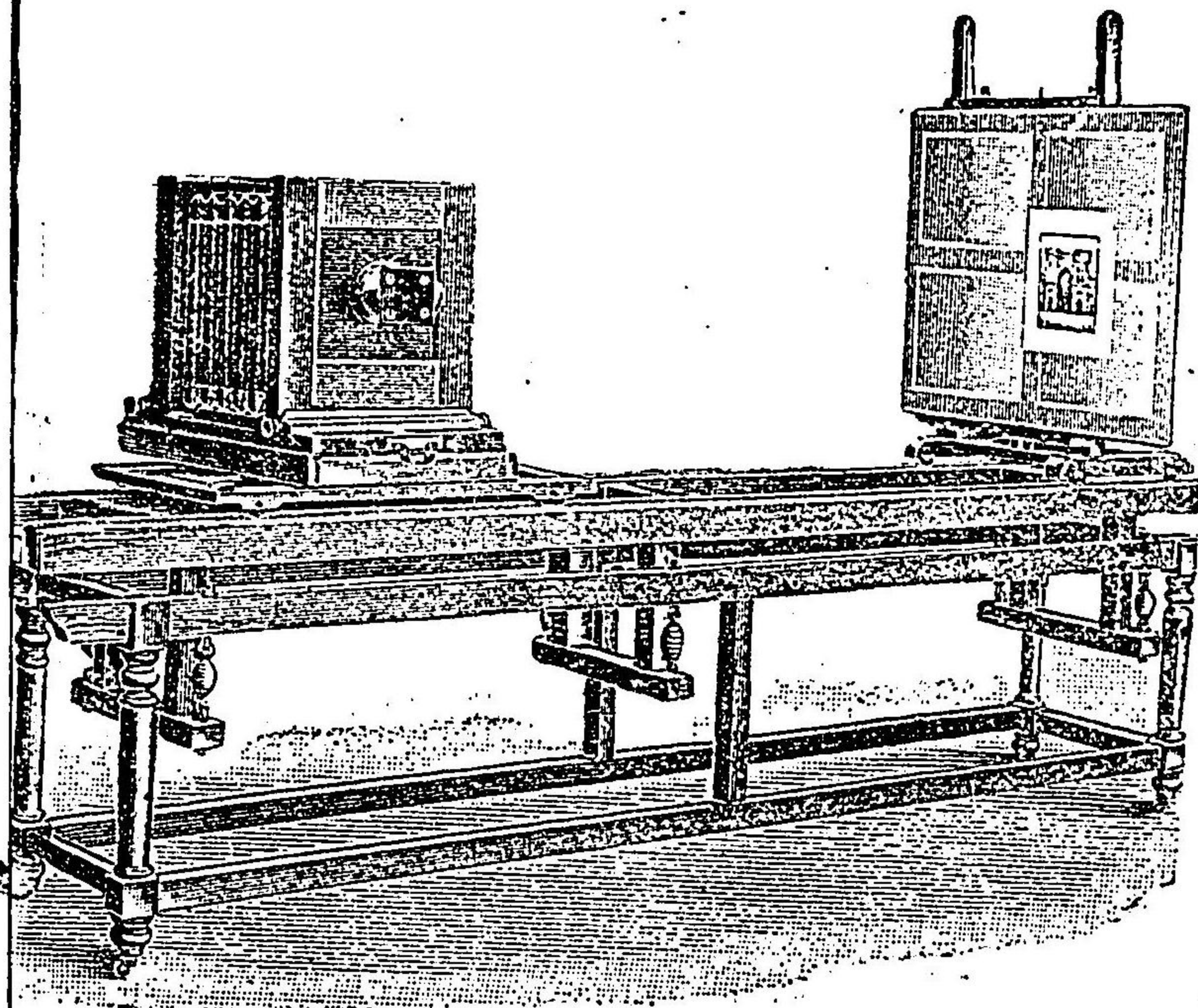
製版用寫眞器械

製版用寫眞器械は斬新なる法式の複寫
 臺并に精密を極むる「レンズ」「スクリン」取
 枠等圖形并に文意を以て説明し難き巧
 妙なる装置あり且つ各部は齒車の便宜
 に由りて自由に進退し容易に正形反形
 の兩複寫用として位置を變じ得る構造
 なれば一般専門製版家に愛用せらる
 尙此の寫眞用材料并に藥品等一切網羅
 し有之候

印刷用「インキ」

印刷用「インキ」の最も精撰を要することは
 一般の既に知らるゝ所なり弊店爾來多年
 の熱心なる經驗に據り左記信用を博しつ
 へある製造商社と特約を取結ひ常に各種
 版式用印刷「インキ」多數取揃へ居り候

日本印刷「インキ」製造株式會社
 英國マンダイト兄弟商會
 米國カリフォルニアインキ會社
 佛國ロリコロ商社
 獨國ベルゲルウイルト商會



ペーリー氏は嘗て印刷は事物の發達を證明する術法なりと謂へり宜なる哉印刷の業たる社界進歩の基礎にして一國の盛衰も斯業の興廢に依て之れを卜する事を得べき所謂社界的事業なり不肖茲に見る所あり是に要する機械及材料一切の専門業を率先開始し既に貳拾有餘年の星霜を重ねるの間一意専心斯業の發展を計り信切と熱心とを以て業に當り需用者をして満足を與へざれば止まざるの趣意を以て大方に對する便宜を圖り又一方に於ては歐米各國の製造地に直

接通信を開き常に斯業諸般の調査を力め斬新の發明に係る機械及材料は同業者に率先し一として輸入せざるはなく又内地の製品に付ては自ら業に従事し百方改善に盡力し以て無上の快樂となし居り候結果多大なる諸彦の御愛顧を蒙り日に月に繁盛を來し今日の景勢に立至り候段欣喜雀躍深く奉鳴謝候就ては孜孜汲々商業上に全力を竭し百事奮勵務て御便益を圖り良品を撰み價を廉にし極て信用を重んじ懇切に營業仕り大方諸彦の御高恩萬分の一を報ぜんことに專

心從事罷在候段何卒遠近と多寡とを論ぜず陸續御用
命被仰付度伏て奉悃願候

明治四十一年十一月

印刷機械、器具
印刷インキ、材料
石版石アルミニウム板
寫眞製版器具
同 材料藥品

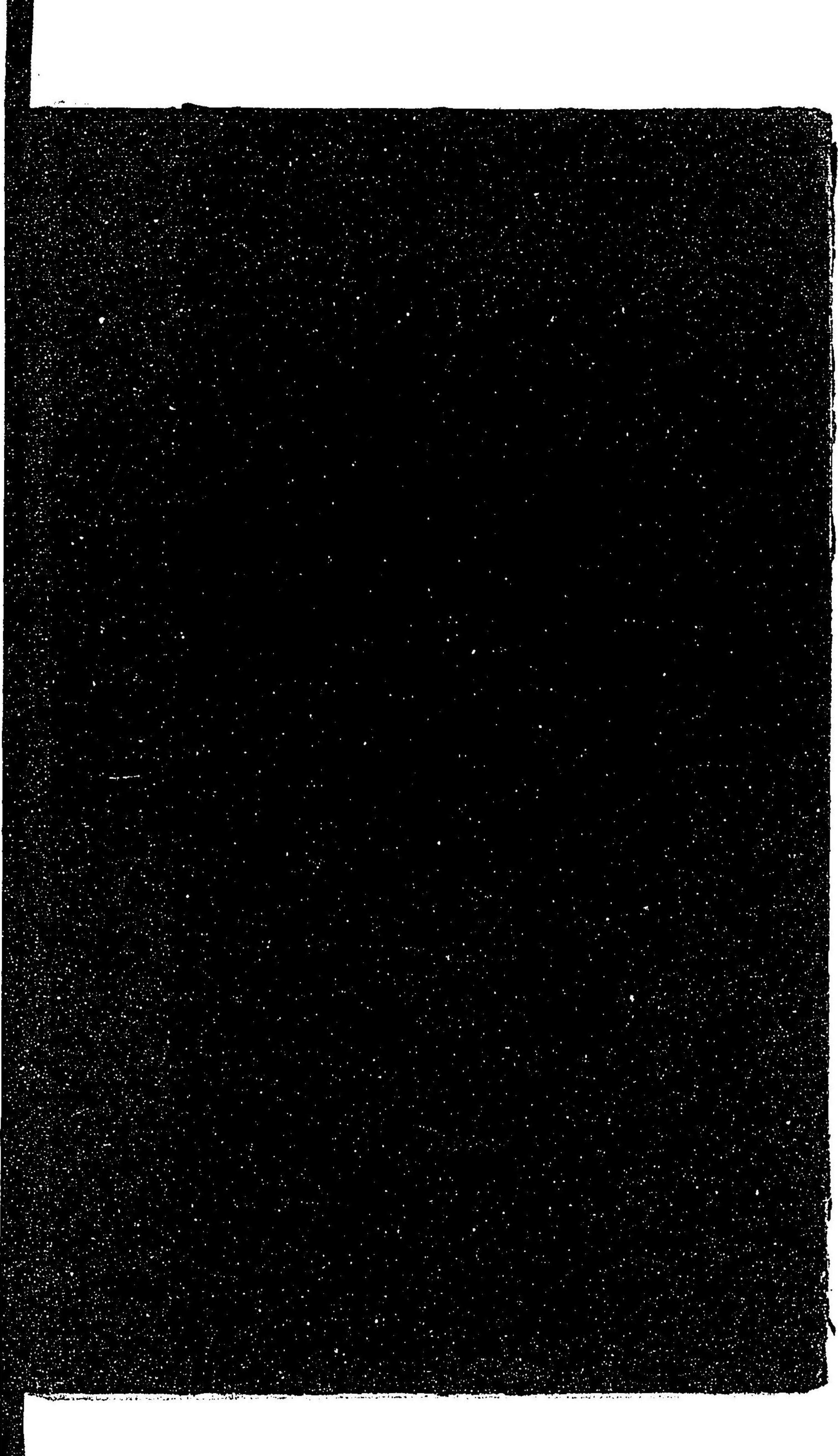
直輸出入業

東京市日本橋區室町三丁目

中西京次郎商店

電話本局 (長三五〇) 番
郵便振替貯金口座 二五六番

~~17~~ 749.1
~~303~~ TA84





072039-000-4

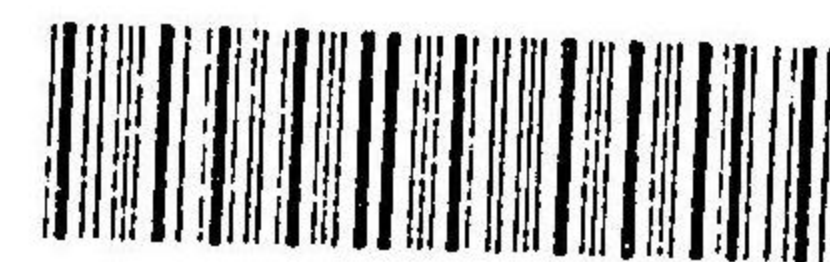
749.1-Ta84ウ

最近製版術必携

田中 孫六/編

M41

CEE-0050



25. 11. 30